



第一回 江戸城 ～太田道灌による築城と関東の争乱～

今回は、第1回目ということで、どこを取り上げるか迷いましたが、やはり東京で働く私達にとって一番身近な城「江戸城」を取り上げることにしました。ただし、徳川将軍家の江戸城では面白味に欠けるので、家康の関東入りより前の、初期の江戸城の築城と関東の争乱について紹介します。現在も残る地名が出てきますので、現在の場所を地図上で思い浮かべながら読んでみてください。

江戸城は、1457年に知将として名高い太田道灌（おたとうかん）によって築かれました。応仁の乱が起こる10年ほど前のことです。当時の地形は、東西で大手町から日本橋くらいの幅の半島が本郷台地から南へ汐留まで伸び、その南から日比谷まで海が入り込んでいたといわれています（図1）。その日比谷入江北方の

丘、今の江戸城本丸跡及び北の丸公園付近に初期の江戸城は築かれたようです。道灌が築いた江戸城は、後の徳川江戸城には比べるべくもなく、もちろん石垣ではなく掻き揚げ土塁の城でしたが、当時は「道灌がかり」と呼ばれ、本丸にあたる子城と外城との間に中城を設けた3部構成からなる、攻守ともにかなう要害堅固な城郭だったといいます。城中には「兵ハ静カナルヲ以テ勝ツ」という中国の兵法から名付けた「静勝軒」という後世の天守閣のような3階建ての居館がありました。そして文才にも優れていた道灌は、後に上京した折、後土御門天皇の御下問に答えて、「わが庵は松原つづき海近く富士の高嶺を軒端にぞ見る」と詠んだと伝えられています。この歌から富士見亭とも呼ばれた静勝軒は、現在の富士見櫓の位置にあったと推定されています。

また、江戸城築城については、道灌が江ノ島に参拝した帰り、舟がちょうど千代田に差し掛かったとき、コノシロ（コハダのこと）が舟に飛び込んで来たのを見た道灌が、これは「九の城」を手に入れるということだと喜び、この地に城を築くことにしたという伝説も残されています。

太田道灌は、当時関東を二分する抗争の中で、河越城（川越城）、岩槻城とともに江戸城を築き、数々の戦いで名声を高めました。

足利尊氏が鎌倉幕府を倒して室町幕府を開いた頃から、鎌倉には鎌倉府が置かれ、尊氏の子息が入り、「関東公方（かんとうくぼう）」と呼ばれて関東の統治を任せられていました。そしてその執事を務める上杉氏



図1 江戸城築城当時の地形

が「関東管領（かんとうかんれい）」として権勢を誇っていました。

上杉氏は、犬懸（いぬがけ）、山内（やまのうち）、扇谷（おおぎがやつ）などの同族間での勢力争いが絶えず、やがて山内上杉氏と扇谷上杉氏が勢力を伸ばします。山内上杉氏の家宰を務めたのが長尾氏であり、扇谷上杉氏の家宰を務めたのが太田氏でした。この長尾氏は山内上杉氏の分国である越後の守護代を務め、ここから長尾景虎が現れ、後に北条氏によって関東を追われた上杉氏の名跡を継いで関東管領上杉謙信となるわけですが、それはまた別の話。

鎌倉府が置かれて数代の後、次第に関東公方と関東管領上杉氏との折り合いが悪くなり、ついに関東公方が築田、里見、結城、宇都宮などの豪族と結んで下総の古河に立てこもってしまいます。これに対して上杉氏は室町將軍の弟を新たに公方に迎え、伊豆の堀越に御所を構えます。これ以後、「古河公方（こがくほう）」と「堀越公方（ほりこしくぼう）」との対立が始まり、関東の諸豪族も二派に別れて争うことになりました。こうした情勢の中、堀越公方を補佐する扇谷上杉氏の家宰である太田道灌は、品川の御殿山から、より北方の要所に江戸城を築いて移り、同時期に築いた河越城、岩槻城と連携して、古河公方派の勢力に対抗していくことになったのです（図2参照）。

この時期の騒乱の中で、長尾氏の家督を継げなかつ

た長尾景春が古河公方と結んで鉢形城で挙兵するという「長尾景春の乱」が起こります。この時も道灌は、上杉方の大将として景春方の諸城を攻め落としています。また、景春に荷担し江戸城・河越城の連絡を断つ動きを見せた土豪の豊島氏を、江古田・沼袋の戦いで破って、練馬城などを攻撃、ついに石神井城に立てこもった豊島氏を滅ぼしました。現在の石神井公園の三宝寺池は、石神井城北方の水堀の役目を果たしていたもので、石神井城の土塁がわずかに残る公園の一角には、石神井城跡の石碑とともに豊島氏滅亡の歴史が刻まれています。

このように、上杉氏の勢力拡大に大いに寄与した太田道灌ですが、堀越・古河両公方の和解が成立すると、表面化した山内・扇谷両上杉氏の対立の中で、主君の扇谷上杉定正によって殺害されてしまいます。これは、山内上杉氏の謀略によるものと言われています。相模糟谷の居館に呼び寄せられた道灌は、風呂場で襲われ、殺害されました。その際、道灌は「当方滅亡！」と叫んだと伝えられています。果たしてその後、扇谷上杉氏は、多くの豪族が山内上杉方に寝返る中、山内上杉氏との大規模な抗争に突入し、その果てには北条早雲に始まる北条氏に付け入る隙を与えてしまうことになるのです。

いかがでしょう。日頃何気なく通り過ぎている場所が、いつもと違って見てきませんか？



図2 当時の関東の情勢



従来、特技懇親には、「通勤電車」のような名物コーナーが設けられていましたが、最近しばらくそのような記事が無くなっています。しかし、やはりちょっとした息抜きの記事もあった方がいいという意見もあり、今回新連載を開始しました。

特技懇では、今後もこのような連載記事を募集しています。

小説、エッセイ等、趣味の書き物の発表の場を探している方は、是非お近くの編集委員にご相談ください。